

語彙力テストの開発について



語彙力テスト：開発の背景

- 学問基盤力テスト—自律的に課題に取り組む専門力

領域	人社	地教	理	医	工	農
数的文章理解・語彙力	○	○	○	○	○	○
数学・物理学・化学・生物学			○	○	○	○

「学生の学習達成度を直接評価し、学士課程教育の効果を検証する」という基本思想を踏まえ、人社、地教の学生を対象にした論理的思考力を問うテストを平成30年度に試行実施。スマホで実施することが困難であり、かつ適切な問題プールを構築することが難しいことから、新たな方法として「語彙力テスト」の研究開発に着手。

・並行してスタートアップセミナー（1年生向け前期必修科目）において、2サイクルを通じて提出される課題やレポートをデータマイニングし、事前事後比較して学生の日本語運用能力や文章力向上を客観的な指標により把握できる手法の研究開発に着手。

・以上を踏まえ、まず入学時に学生の「語彙力」を測定し、入学後のスタートアップセミナーの課題やレポートの事前事後比較の結果、2年招業時の「語彙力」の測定結果を用いて基盤共通教育における学生の学習の達成度を客観的に把握する取組を試行的に実施する。

限られた時間ですので、要点だけお話ししたいと思います。先ほど、安田先生が説明してきた部分は理系科目が中心になっています。なぜ語彙力を開発しようとしたのかということとも関わりますが、山形大学の場合、人文社会科学部と地域教育文化学部と、いわゆる文系の学部もございます。これらの学部では受験科目が少ないということと、文系に特化したようなテストができないかということのお話をずっといただいていた。我々としても、1年次の授業を使ってそこでプレテストの比較ができるんじゃないか。あるいはこちらの方にありますように、様々なスキームを活用して何かできないかと学内でいろいろ検討してまいりました。そして、行き着いた一つの答えが語彙力テストとい

うものになります。

語彙カテスト：開発の目的

語彙≒Vocabulary

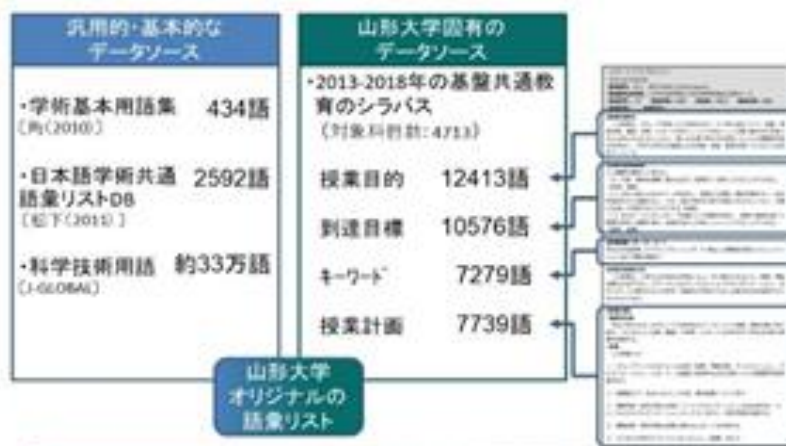
- 一語彙は、日本語力の中でも主要な基本要素
- 一ある言語、ある地域・分野、ある人、ある作品など、それぞれで使われる単語の総体。
- 広さ：どのぐらいの語彙を知っているか
- 深さ：特定の語彙をどのぐらい知っているか

- 山形大学で実施する語彙カテストは「深さ」の測定に主眼を置き、以下の目的の下で実施する。
 - ① 高校教育を経て本学に入学してくる学生が、大学の授業において日常的に用いられている基本的な語彙について、どの程度、理解しているのかを測定する。
 - ② 1年間の基盤共通教育を経た後に、入学時に理解できなかった語彙に対する理解がどの程度、向上しているのかを測定する。
 - ③ 上記を通じて、授業内容の検討、シラバスの記載内容等、大学における学びの向上や教育の質保証強化に資する取組の参考情報として活用する。



理解できているのかということを中心に見ていくテストを開発したいということでやっています。開発の基本的な考え方といたしましては、まず高校を卒業して入ってくる学生が、大学の授業において日常的に用いられている基本的な語彙について、どの程度理解しているかを測定できるようなテストにしたいということ。そして1年間の基盤共通教育を経た後に、入学時に理解できなかった語彙が、どれくらい理解できているのかという伸びを測定できるようなものにするということです。

語彙カテスト：語彙リストの作成

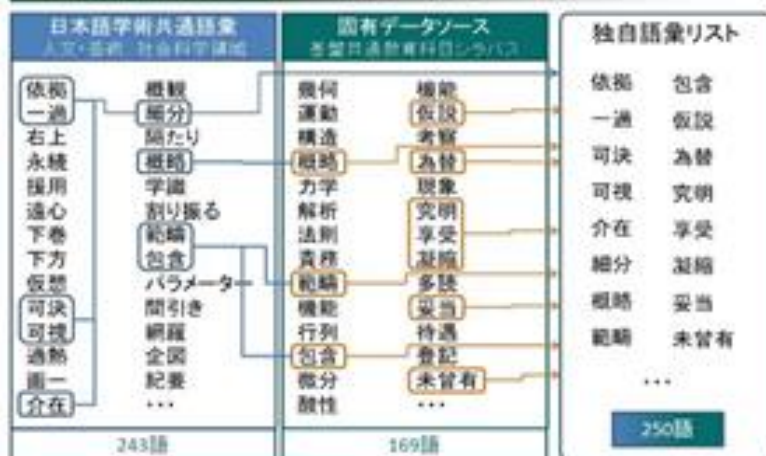


これから概要を御説明いたします。まず、語彙力というのは通常 Vocabulary です、日本語の場合は基本的な用語を知っているかどうかということになります。その際、どれくらい知っているかという量の話と、それぞれの用語をどれくらい理解できているかという質のところがあります。我々は、これまでの安田先生の説明を踏まえて、後者、どれくらい

この二つのことを踏まえ、我々は、ここにありますように、授業で実際に先生方が使っている用語をシラバスから抽出しました。シラバスの目的欄、あるいはキーワード欄に出てきている用語をテキストマイニングし、頻出度の高いものを中心に選定し、問題を開発していくという方針を取りました。ただ、これだけですと、山形大学一般のみの

話になりますので、もう少し広い目で見ようということで、参考にしたのがこちらのようデータソースになります。特に、今日の発表に直接連動してまいりますのはここですね。日本語学術共通用語というのがございまして、東大の松下先生が 2011 年に開発された「語彙リスト」を参考にさせていただきました。なぜ、ここに注目したかということ、分野別に作

語彙カテスト：語彙リストの精選



っていただいているからです。

人文社会科学系、あるいは理系といった形で、分野ごとに応用がきくということもありまして、今回は文系を参照しております。先ほど、お話ししましたように、大学、特に1年生の授業で先生方が使っている用語をシラバスから抽出してきたものと照合し、オリジナルの語彙リストを作りました。人文社会科学系の一般

的な著書などで用いられ入る用語、そしてその中から山形大学で特に使っている用語といったものをマッピングしまして、約 250 抽出したという形になります。こうして抽出した用語を、基盤力テストの一環としてスマホで実施できるよう、設問に当たっても工夫しました。

語彙カテスト：設問例

問1. 「概観: 概観を示す」について、最も適当なものを以下の選択肢から一つ選べ。

1. 詳しい内容のこと
2. 自己主張すること
3. 全体のあらましのこと
4. 他の人に説明すること
5. わからない

問2. 「学識: 学識がある」について、最も適当なものを以下の選択肢から一つ選べ。

1. 学問的評価が高いこと
2. 博士号を持っていること
3. 人脈が広いこと
4. 人望が厚いこと
5. わからない

こちらはサンプル問題ですが、語彙に対して5つの選択肢を置いております。例えば、この「概観を示す」ということについて、どれが正しいのかというのを一つ選んでいただくというような形式にしています。

以上が語彙力テストの概要になります。では、再度、安田先生に戻します